

「当時、隣接する相良町（現牧之原市）で、映画『ウォーターボーイズ』の撮影が行われたことが大

「まずはやってみる」
それがメンバーの合言葉

江戸時代に東海道の宿場町として栄えた島田市。昭和初期には、木材産業とともに大井川鐵道が発展した。この地にフィルムコミッションが誕生する契機となったのは、今から8年前の平成17年にさかのぼる。



有志から始まった手探りの支援が
まちを巻き込み、地域の発展に貢献



▲島田商工会議所の1階には、撮影で使った小道具や、アットホームな撮影の雰囲気を感じるポートレートがずらり。フィルムサポート島田運営委員会の中心メンバーである（左から）運営副委員長の長谷川広巨さん、運営委員長の落合睦美さん、運営副委員長の小長谷一夫さん、運営副委員長の森田茂さん

変話題になりました。映画やドラマのロケを誘致することで大きな経済効果があると知り、商工会議所青年部の仲間がフィルムコミッションの設立を考えるようになったのが、そもその始まりです」と話すのは、フィルムサポート島田運営委員会の運営委員長を務める落合睦美さんだ。

わがまちの地域活性化に役立つなら……と、そのノウハウを学ぶべく「静岡まきのほらフィルムコミッション」のロケに応援参加。『涙そうそう』広島8月6日『電車男』といった作品のサポート業務を手伝いながら、自らもエキストラに加わった。フィルムコミッションの舞台裏で行われている支援や、実施することによって生まれるメリット・デメリットを、身をもって学ぼうと考えたのだ。

実際、分からないことはたくさんあったというが、ロケ誘致を通じて島田市に経済効果を生み出し、地域振興や知名度アップにもつながると確信した。そこで、現



映画やドラマ、小説に登場するまちは、多くの人の心を魅了する。こうした作品の舞台になることで、全国から多くの人が訪れるだけでなく、地域の人もまちに誇りを持ち、新たなにぎわいが生まれるきっかけとなることも多い。今号では、作品を生かした新たなまちづくりや観光振興に取り組む地域の事例を紹介する。